ブランドとしての「三田」

三田市の成立は昭和33(1958)年７月１日付けです。終戦後の大規模な自治体再編である「昭和の大合併」の一環として、３件の合併を経て誕生した有馬郡三田町がこの日に市制を施行しました。ところで地方自治法には、地方自治体は法人であると規定されています。現在、三田市がもつ法人格はこの三田町から継承されたもので、その誕生は一連の合併の中では２番目にあたる昭和31(1956)年９月30日付けの三田町の発足にさかのぼります。また「市制施行に関する調書」(市史第５巻240号資料)によれば、新市の名称は「現町名(三田)を採った」とあるので、現在の市の名称もまたこの三田町から受け継いだものです。

発足した三田町役場と旧町村長（昭和 31 年）

昭和31年の合併は、有馬郡三田町など２町３村の対等な合併ですが、法的には関係町村の解消をともなう自治体の新設という形式をとりました。したがって現在の市に引き継がれている法人格と、「三田」という名称は、共に江戸時代以来の三田町のそれを引き継いだものではなく、合併によって新たに誕生した法人格でありその名称なのです。つまり市名の「三田」は、明治以前からの町名である三田そのものではないのです。

それでは現在の市名である「三田」は、どのような意味をもつ地名なのでしょうか。昭和31年の町村合併の際の町名選定の経緯について、新町の広報紙である「三田町弘報」創刊号には、「三田米、三田牛、国鉄三田駅等により、広く天下に名の知れている三田町名を称え、合併による躍進、大三田町を建設する」と記されています(市史第２巻)。ここでは新生三田町に冠された「三田」は、地名というよりはむしろ新町の躍進を担うブランドとして認識されています。「三田」を当時の地域の人々は、「広く天下に名の知れている」ブランドとして自負していたのです。

以来57年。大きく変化する時代のもとに生きる私たちも、恩田(おんでん)・非田(ひでん)・敬田(けいでん)とも説かれる「三田」という名に先人達が込めた誇りと自負、期待とを改めてかみしめながら、これからの未来ある地域づくりに取り組んでゆきたいものです。

生涯学習支援課 市史編さん担当